

2026年3月期 第2四半期（中間期）

決算説明資料

上村工業株式会社

東京証券取引所スタンダード市場 証券コード：4966

2025年11月10日

2026年3月期 第2四半期（中間期）決算概要

【連結会計期間】

日本国内(1社)：4月～9月／海外(10社)：1月～6月

- 表面処理用資材事業

- ・ 主力の半導体パッケージ基板向けのめっき薬品の需要は、生成AI用サーバー向けを中心に好調に推移し、売上高、セグメント利益ともに前年同期を上回りました。

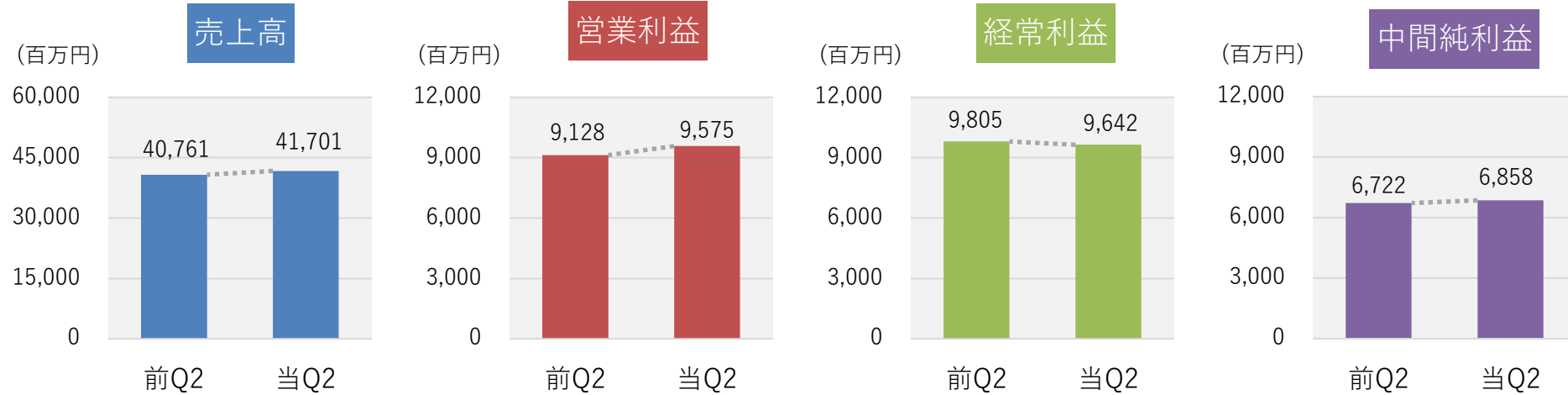
- 表面処理用機械事業

- ・ 売上高は前年同期をやや下回りましたが、付加価値の高い半導体ウェハー用めっき装置の販売により、セグメント利益は前年同期を上回りました。

- めっき加工事業

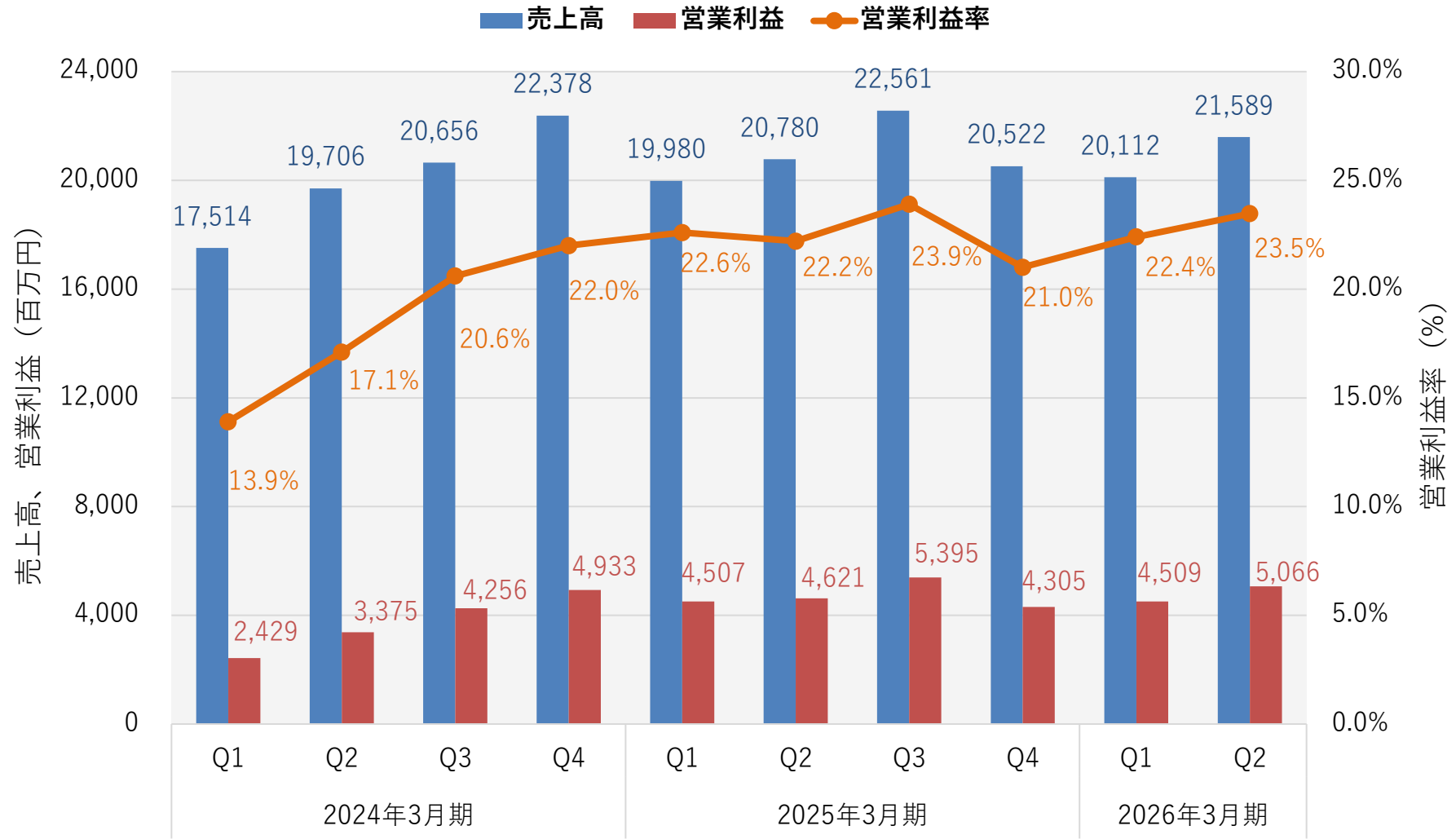
- ・ 電子回路基板向けのめっき加工の需要が前年同期より増加したことに加え、コスト削減や歩留まりの改善にも取り組んだことから、売上高、セグメント利益ともに前年同期を上回りました。

2026年3月期 第2四半期（中間期） 決算概要

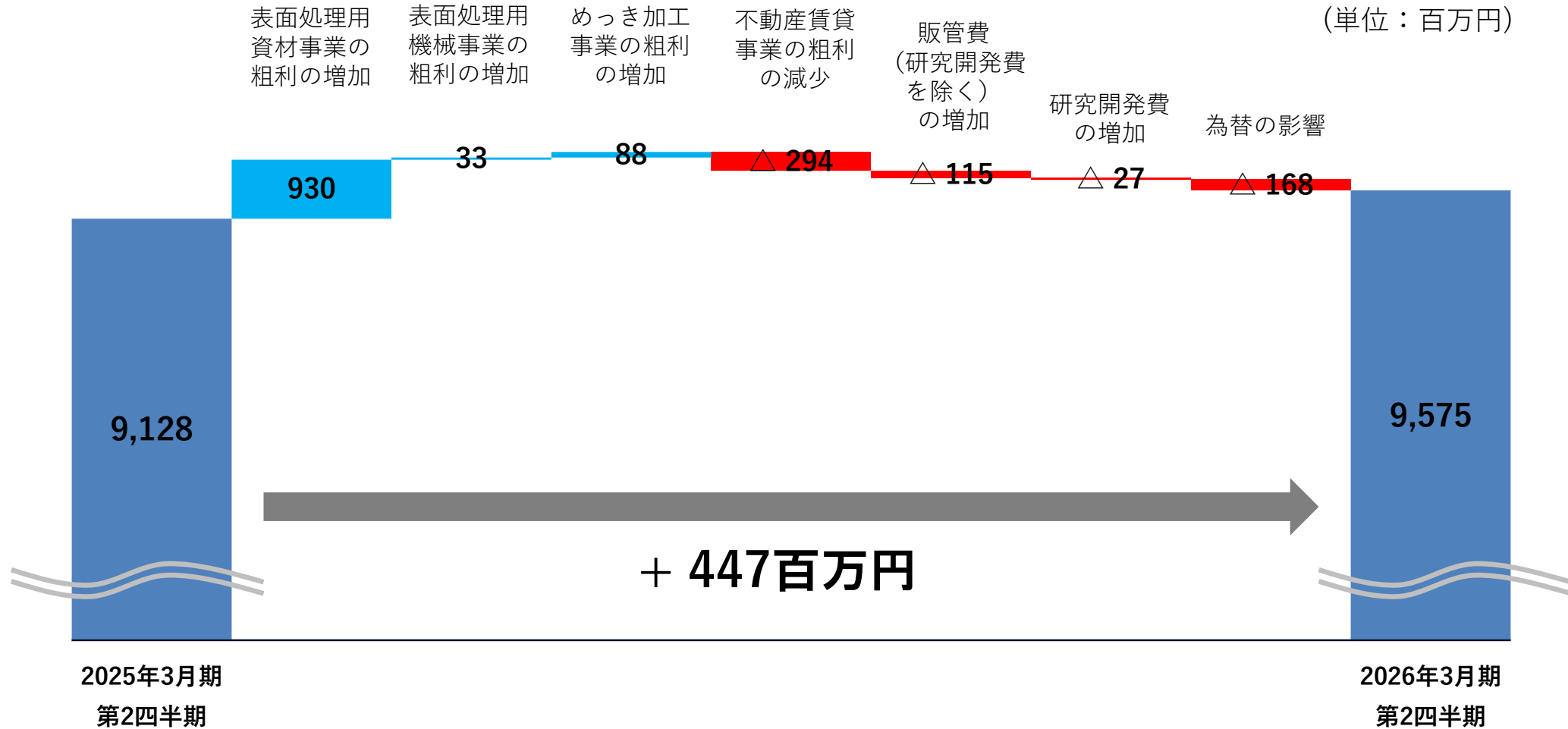


(単位：百万円)	前第2四半期 累計実績	当第2四半期 累計予想	当第2四半期 累計実績	前期比	予想比
売上高	40,761	37,890	41,701	+ 940 (+ 2.3%)	+ 3,811 (+ 10.1%)
営業利益	9,128	6,970	9,575	+ 447 (+ 4.9%)	+ 2,605 (+ 37.4%)
経常利益	9,805	7,250	9,642	△ 163 (△ 1.7%)	+ 2,392 (+ 33.0%)
中間純利益	6,722	5,260	6,858	+ 136 (+ 2.0%)	+ 1,598 (+ 30.4%)
為替：米ドル	152.36円	141.02円	148.40円	3.96円高	7.38円安

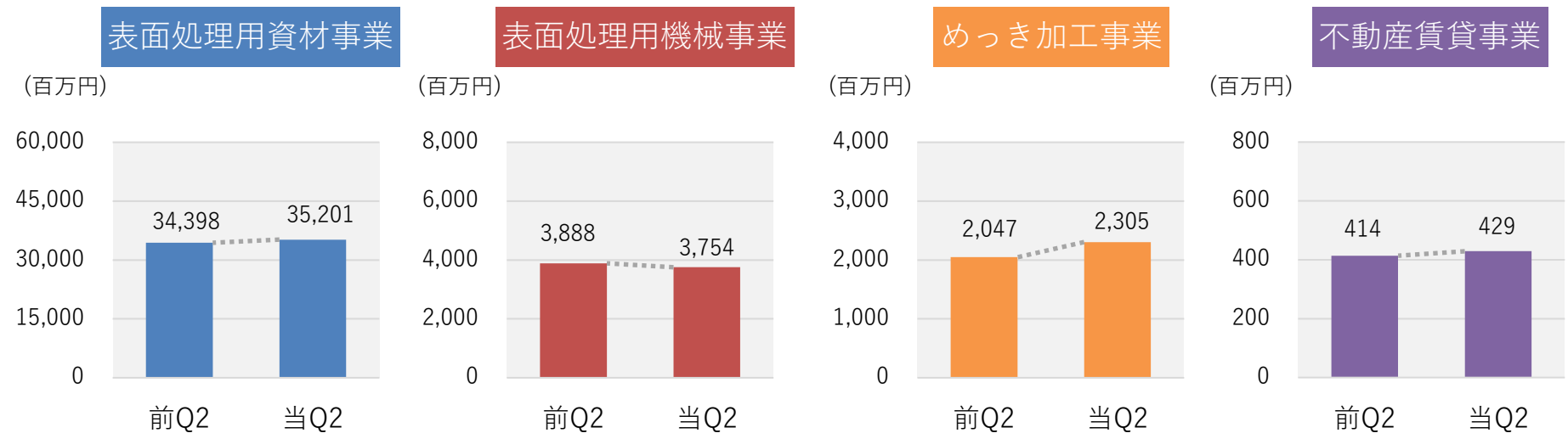
四半期毎の業績推移



営業利益の増減要因



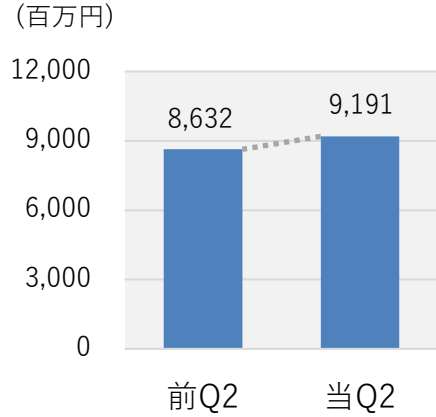
事業セグメント別売上高



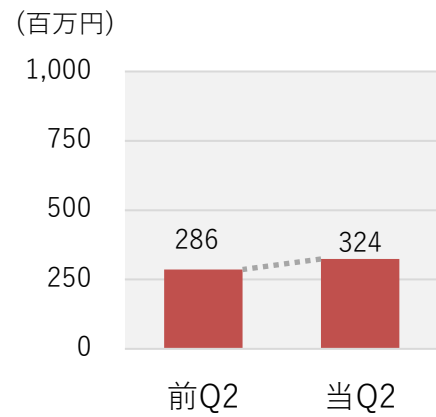
(単位：百万円)	前第2四半期 累計実績	当第2四半期 累計実績	増減額	増減率
表面処理用資材	34,398	35,201	+ 802	+ 2.3%
表面処理用機械	3,888	3,754	△ 134	△ 3.4%
めっき加工	2,047	2,305	+ 257	+ 12.6%
不動産賃貸	414	429	+ 15	+ 3.8%

事業セグメント別営業利益

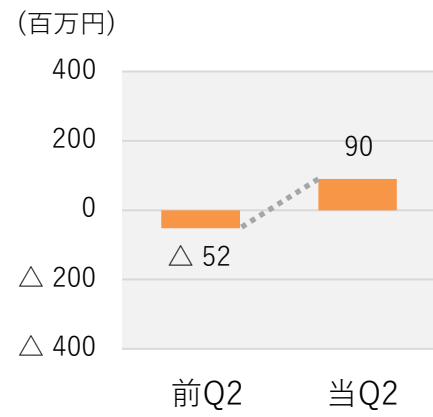
表面処理用資材事業



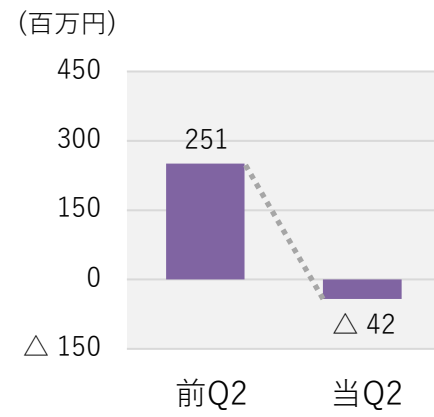
表面処理用機械事業



めっき加工事業

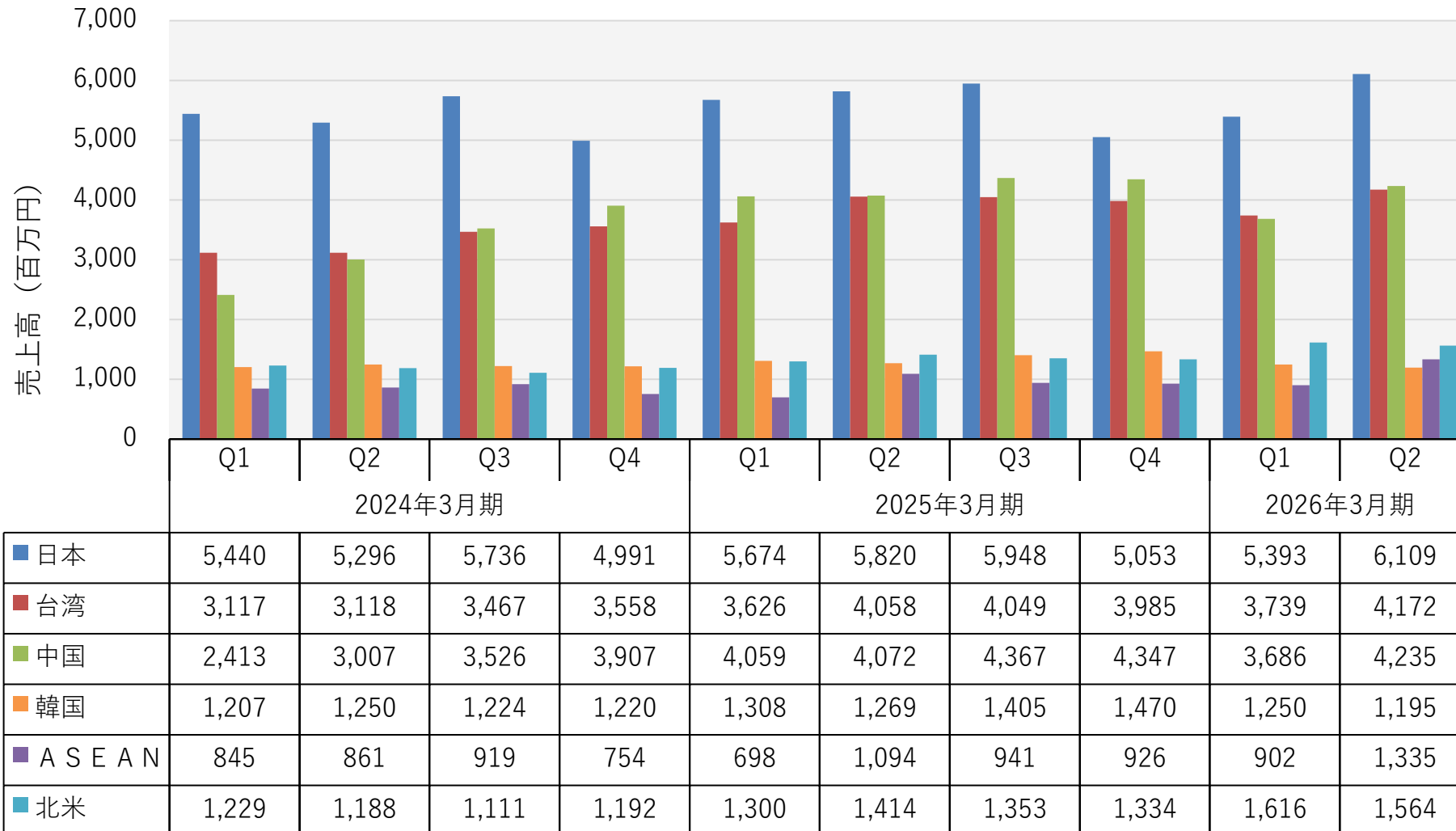


不動産賃貸事業

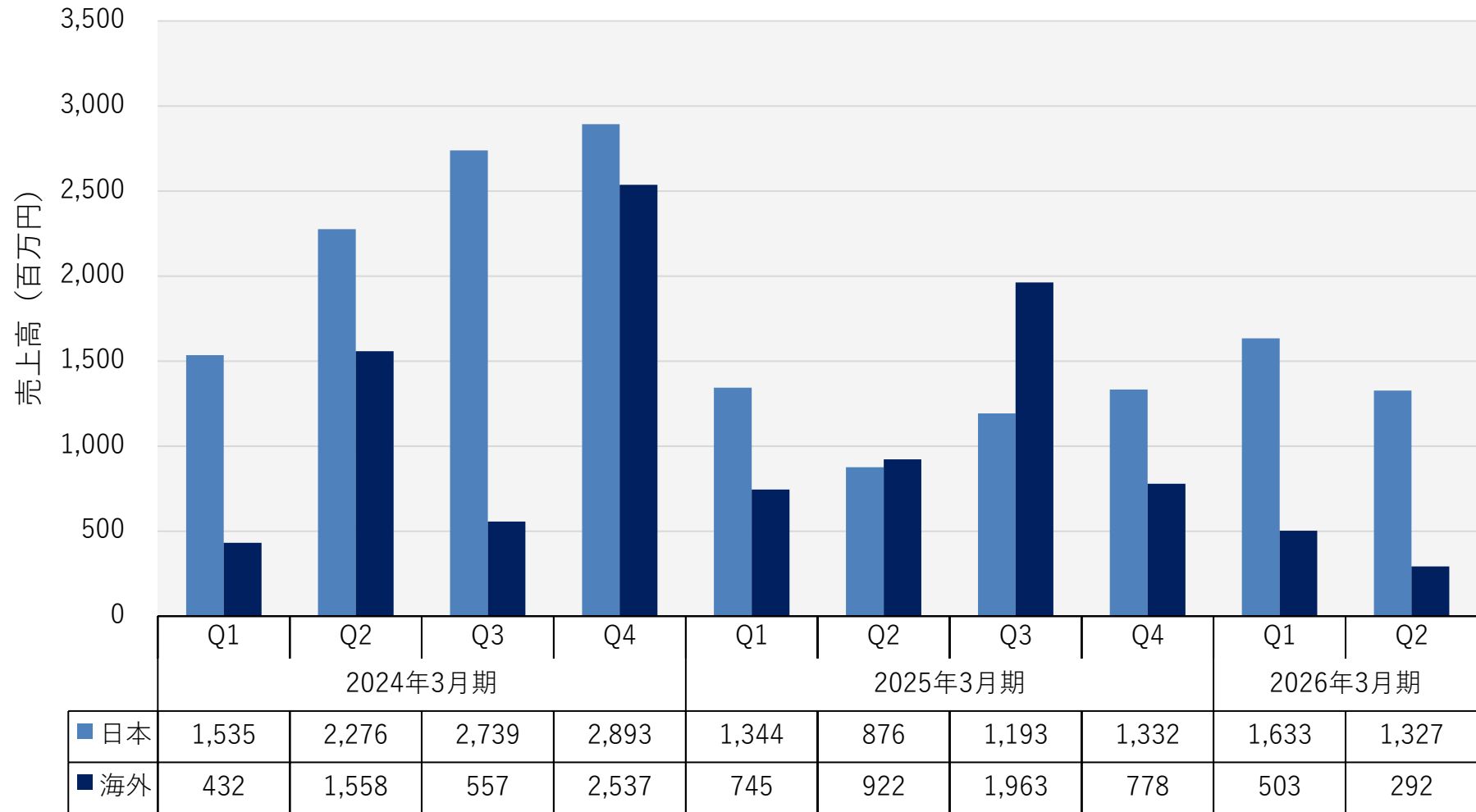


(単位：百万円)	前第2四半期 累計実績	当第2四半期 累計実績	増減額	増減率
表面処理用資材	8,632	9,191	+ 558	+ 6.5%
表面処理用機械	286	324	+ 37	+ 13.0%
めっき加工	△ 52	90	+ 143	-
不動産賃貸	251	△ 42	△ 293	-

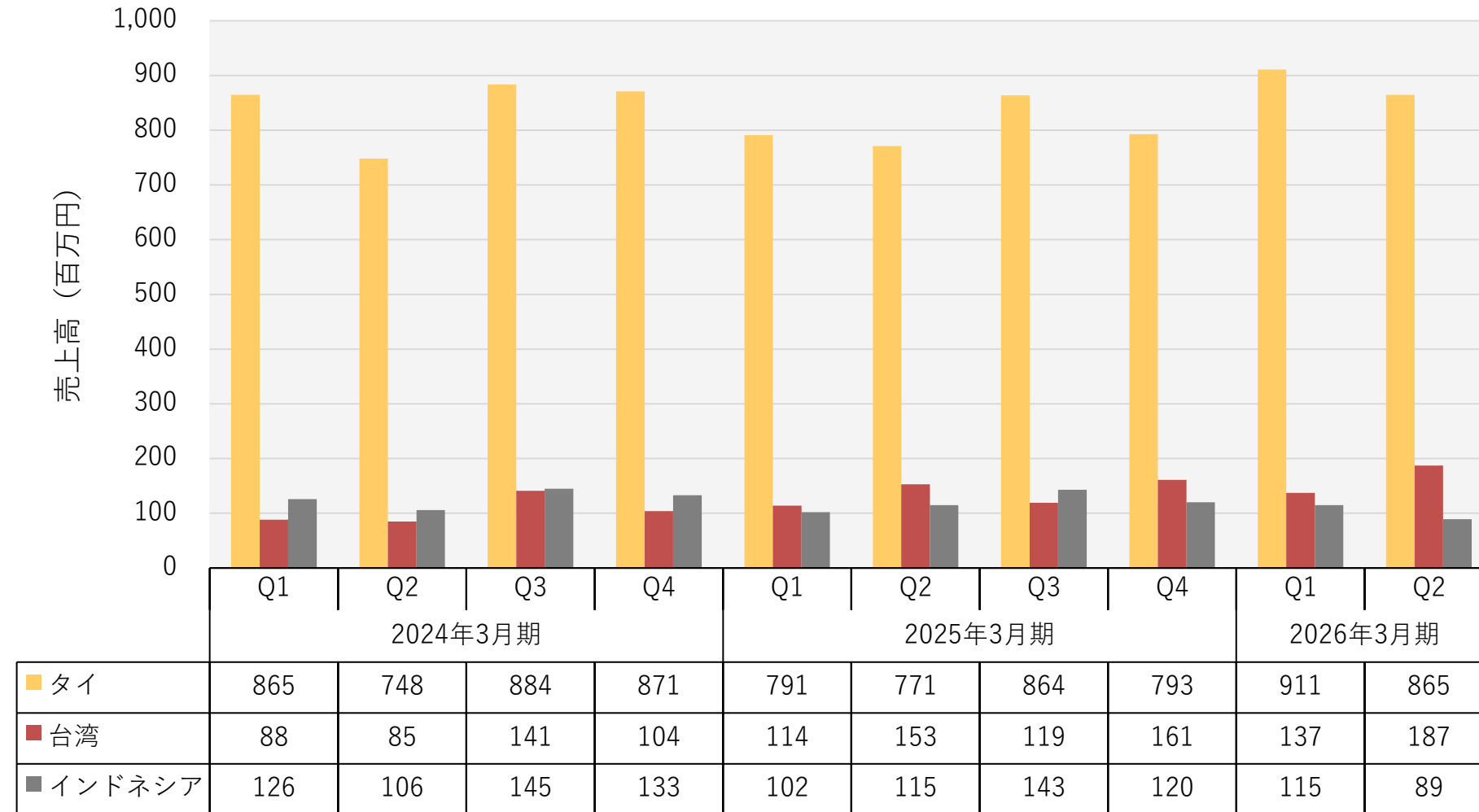
表面处理用資材事業 売上高推移



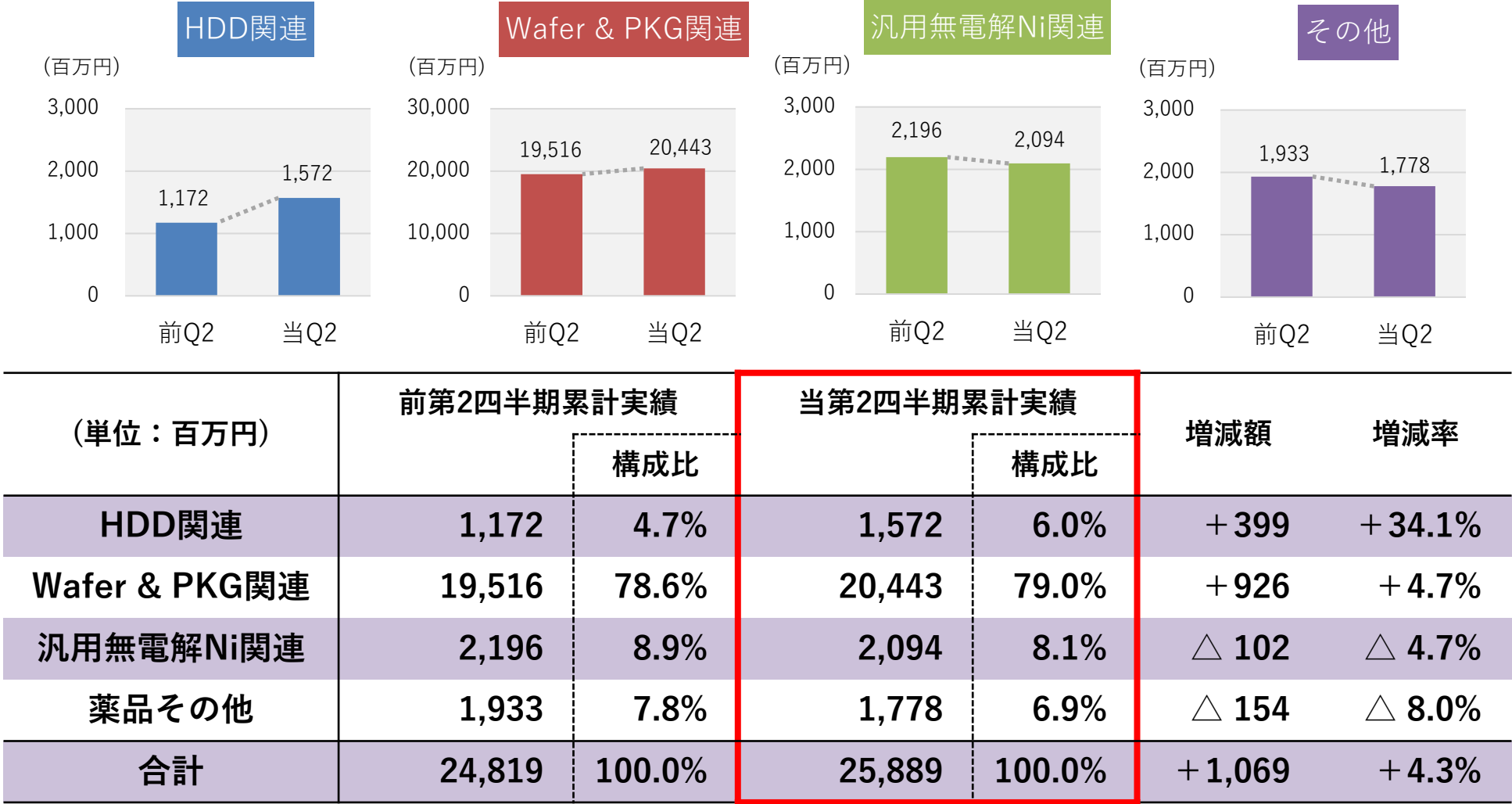
表面処理用機械事業 売上高推移



めっき加工事業 売上高推移

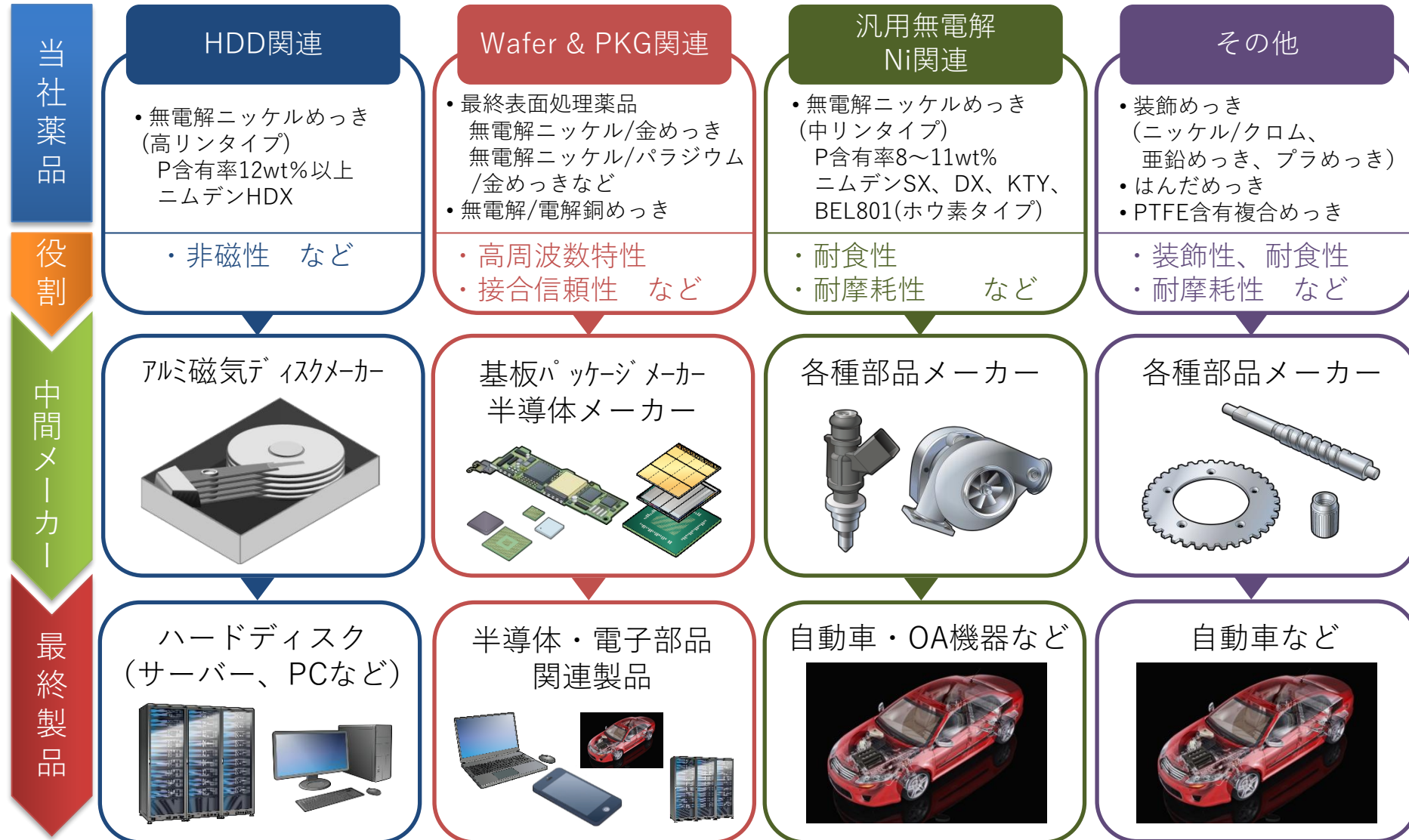


薬品カテゴリー別売上高



薬品の売上高は、表面処理用資材事業に含まれます。薬品には研磨剤、工業薬品、金属等は含んでおりません。※内部売上高含む。

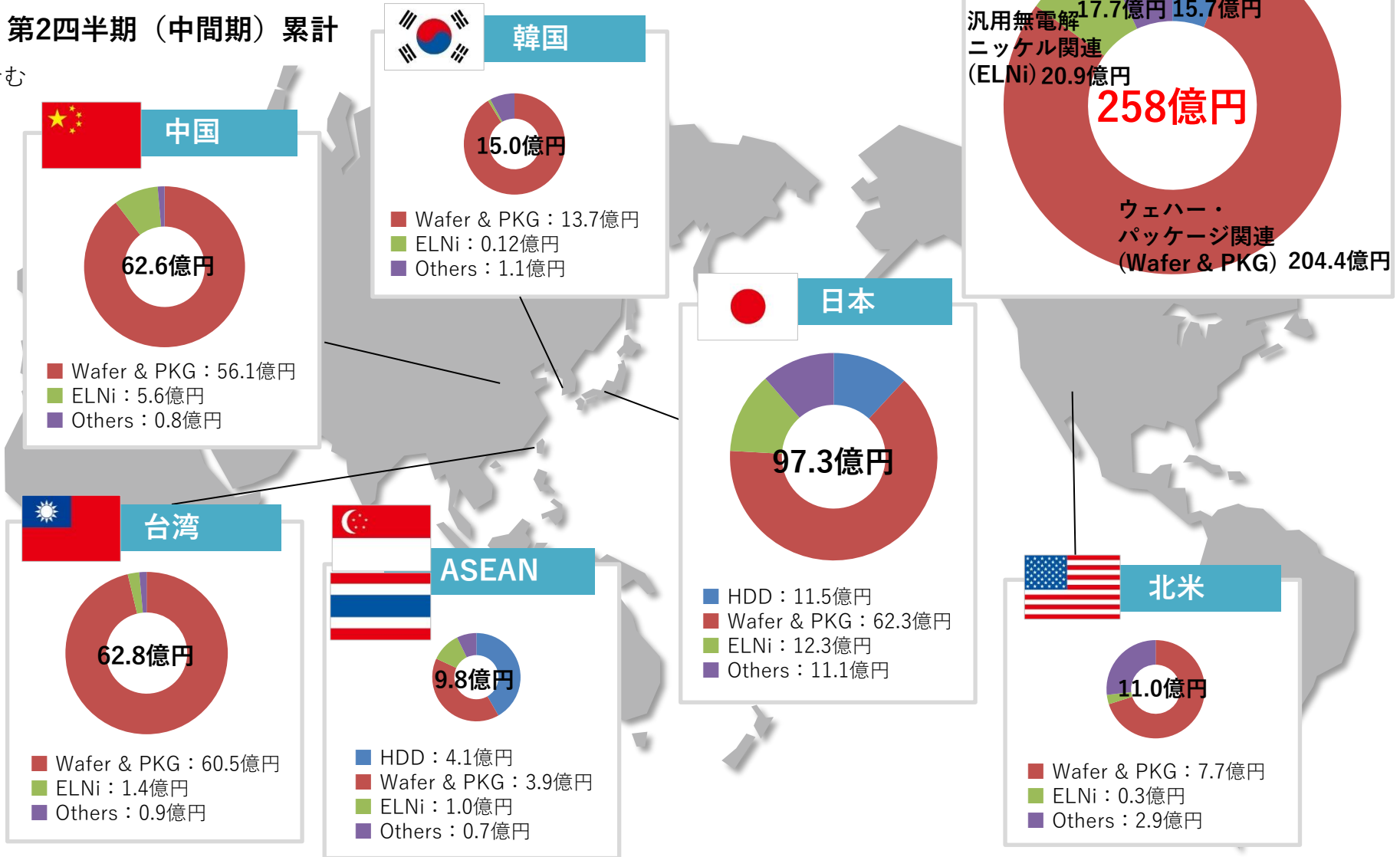
薬品ビジネス 最終製品までの流れ



地域別薬品売上高

2026年3月期 第2四半期（中間期）累計

※内部売上高含む



連結業績予想の修正

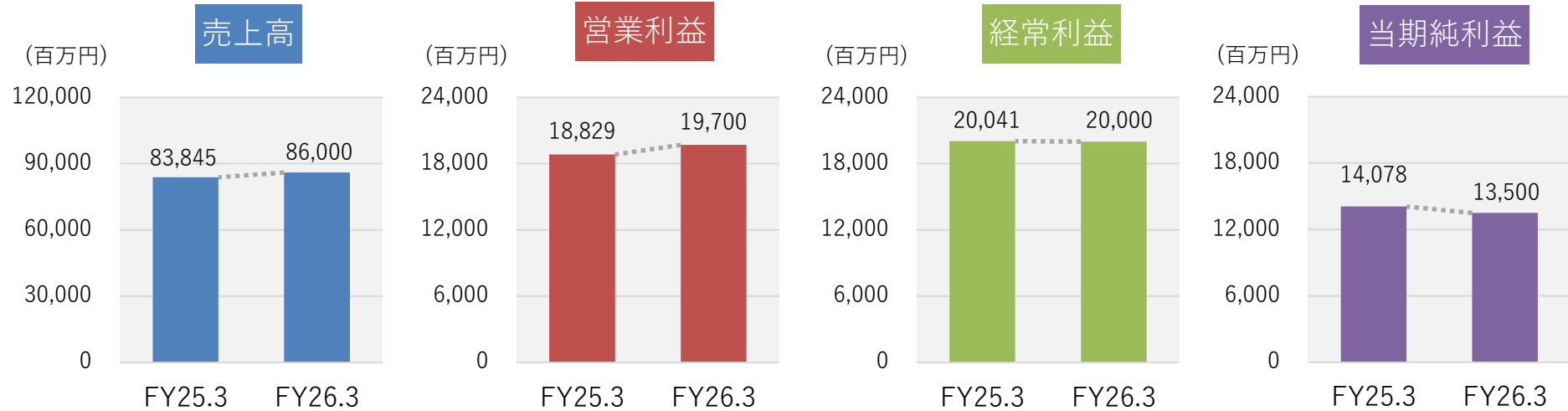
(単位：百万円)	前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率
売上高	82,630	86,000	+ 3,370	+ 4.1%
営業利益	15,010	19,700	+4,690	+31.2%
経常利益	15,550	20,000	+4,450	+28.6%
当期純利益	10,450	13,500	+3,050	+29.2%
1株当たり 当期純利益	647.91円	836.68円		

《修正の理由》

当中間期連結会計期間は、当社グループの主力市場であるエレクトロニクス市場において、生成AI用サーバー向けを中心とする需要が市場を牽引しました。

引き続き、ウェハー用およびパッケージ基板用めっき薬品の販売が堅調に推移することが見込まれることから、売上高、利益ともに前回発表予想を上回る見込みとなりました。

2026年3月期 通期業績予想



(単位：百万円)	前期実績	当期予想 (2025.11.10修正)	増減額	増減率
売上高	83,845	86,000	+2,155	+2.6%
営業利益	18,829	19,700	+871	+4.6%
経常利益	20,041	20,000	△ 41	△ 0.2%
当期純利益	14,078	13,500	△ 578	△ 4.1%
為替：米ドル	151.69円	149.41円	2.28円高	

2026年3月期 通期業績予想

● 事業セグメント別売上高・営業利益予想

(単位：百万円)	売上高				営業利益			
	前期実績	当期予想 (2025.11.10修正)	当Q2 累計実績	対予想 進捗率	前期実績	当期予想 (2025.11.10修正)	当Q2 累計実績	対予想 進捗率
表面処理用資材	69,581	70,648	35,201	49.8%	17,805	19,221	9,191	47.8%
表面処理用機械	9,157	9,887	3,754	38.0%	582	720	324	45.0%
めっき加工	4,250	4,858	2,305	47.4%	△ 47	94	90	95.7%
不動産賃貸	832	838	429	51.2%	467	△ 352	△ 42	-

● 薬品カテゴリー別売上高予想

(単位：百万円)	前期実績	当期予想 (2025.11.10修正)	当Q2 累計実績	対予想 進捗率
HDD関連	2,624	3,115	1,572	50.5%
Wafer & PKG関連	39,848	42,150	20,443	48.5%
汎用無電解Ni関連	4,317	4,350	2,094	48.2%
薬品その他	3,614	3,585	1,778	49.6%
合計	50,405	53,200	25,889	48.7%

<参考> 為替感応度

2026年3月期想定レート：149.41円(JPY/USD)

円安に1円振れると通期で

- ・ 売上：約340百万円増
- ・ 営業利益：約70百万円増

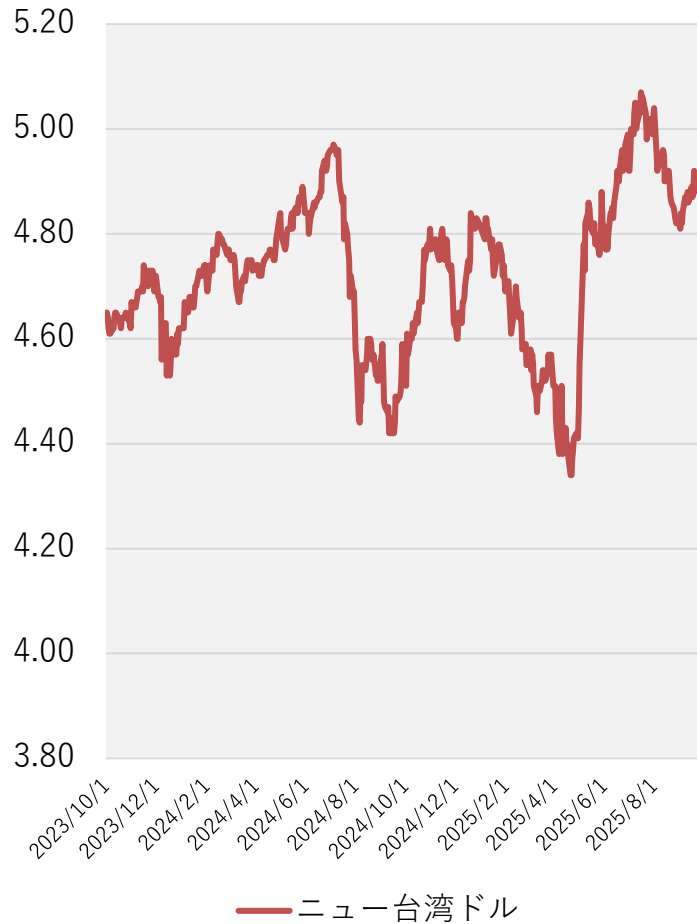
円高に1円振れると通期で

- ・ 売上：約340百万円減
- ・ 営業利益：約70百万円減

※米ドル以外の通貨も連動して動くことを想定しています。

為替レートの推移

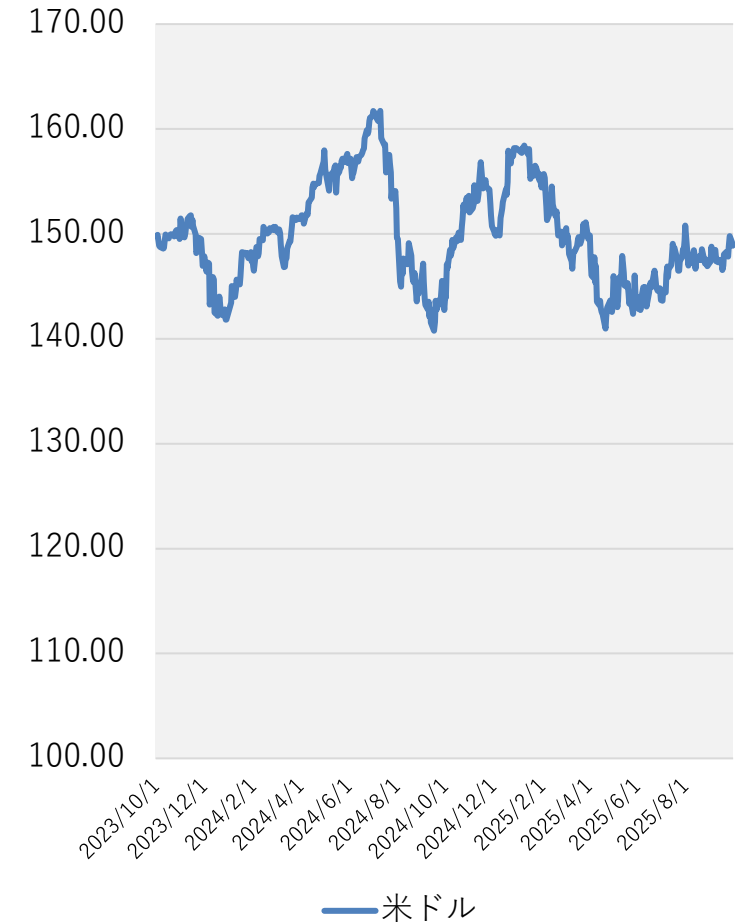
ニュー台湾ドル



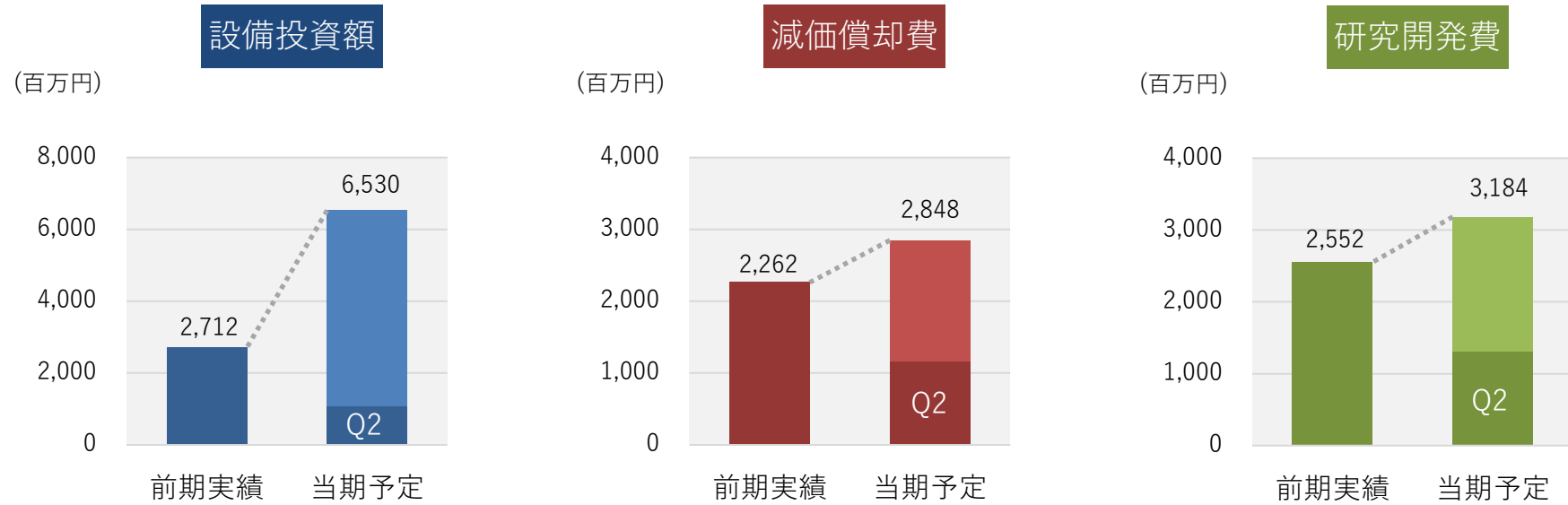
人民元



米ドル



設備投資/減価償却/研究開発費



(単位：百万円)	前期実績 (通期)	当第2四半期 累計実績	当期予定 (通期)
設備投資額	2,712	1,087	6,530
減価償却費	2,262	1,164	2,848
研究開発費	2,552	1,315	3,184

配当予想の修正について

配当予想を230円から280円に修正（増配）

当社は、株主の皆様に対する利益還元を重要な経営課題として認識しており、安定的な配当の継続を業績に応じて行うことを基本方針としております。

この方針に基づき、2026 年 3 月期の業績や財政状態などを総合的に勘案した結果、2026 年 3 月期の期末配当予想につきましては、前回予想の230 円から50 円増配し、1 株当たり280 円に修正いたします。

2026年3月期	1株当たり配当金
前回予想 (2025 年5月12 日発表)	230円
今回修正予想 (2025 年11月10 日発表)	280円

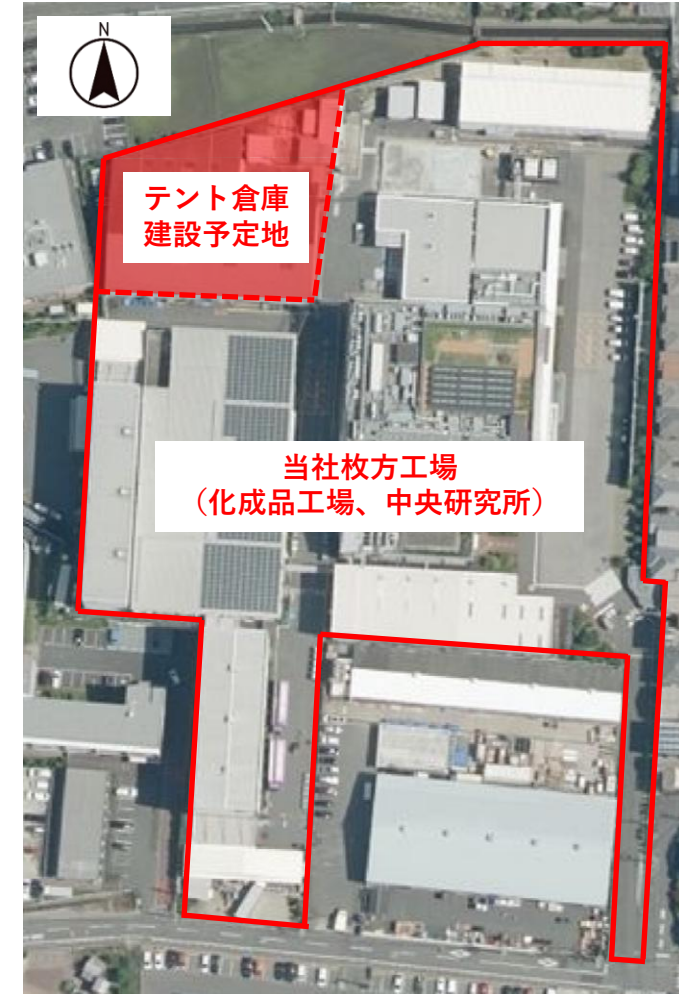
<トピックス> 枚方工場再構築の進捗状況

旧機械工場跡地へのテント倉庫建設

現在、枚方化成品工場（大阪府枚方市）では外部倉庫を借用していますが、賃借料や運搬費などの負担が大きいことから、旧機械工場跡地へのテント倉庫の建設を計画しております。テント倉庫の新設により、物流効率化と生産コストの削減を図ってまいります。

投資概要

- ・所在地：大阪府枚方市出口1-5-1（枚方工場敷地内）
- ・鉄骨・鋼管造（防災シート仕様）
- ・建築面積：約1,232m²
- ・投資予定金額：約1.4億円
- ・完成予定時期：2026年4月



国土地理院撮影の空中写真を加工して作成

顧客要求への対応力強化

UBM（Under Bump Metal）向けめっきプロセスの試作・評価に対応するため、中央研究所（大阪府枚方市）のクリーンルームの拡張および新規UBM装置の設置を計画しております。

投資目的

- 膜厚均一性の向上
- 新工程への対応力強化
- 作業性の改善

投資概要

- 所在地：中央研究所（大阪府枚方市）
- 投資予定金額：約2.2億円
- 完成予定時期：2026年8月



UBMめっき装置



中央研究所

<トピックス> 東アジア地域における薬品生産能力の拡張

倉庫拡充による安定供給体制の構築

東アジア地域（中国・韓国）におけるめっき薬品の生産能力を拡張する一環として、中国・深圳では倉庫建屋および自動倉庫の新設、韓国では新倉庫建設用地の取得および倉庫建設を計画しております。

中国・深圳

- 所在地：中国広東省深圳市
- 投資予定金額：約5.2億円
（建屋3.8億円・自動倉庫1.4億円）
- 完成予定時期：2026年12月



上村工業（深圳）有限公司

韓国

- 所在地：韓国京畿道華城市
- 投資予定金額：約6.6億円
（土地2.6億円・倉庫建設4億円）
- 完成予定時期：2027年6月



韓国上村株式会社

<トピックス> タイ技術センターにおける設備投資

ASEAN地域における技術サポート体制の充実

タイでは、めっき薬品のさらなる拡販を目的に技術センターを設置し、顧客への技術サポートを開始しました。高度な分析機器・解析機器を導入し、現地での迅速かつ高精度な技術サポート体制の確立を進めてまいります。

投資目的

- ・ 台湾・中国系顧客への対応強化
- ・ 解析能力の向上・迅速化

投資概要

- ・ 所在地：タイ国パトゥムタニ県ナワナコン工業団地（既存工場敷地内）
- ・ 投資予定金額：約1.4億円
- ・ 購入機器：FIB-SEM（集束イオンビーム走査電子顕微鏡）
クロスセクションポリッシャー（断面試料作製装置）
- ・ 納入予定時期：2025年12月



ウエムラ・タイランド

ESG・SDGsに関する取り組み

当社は「Growing together with  (UY:You)」のグループ共通スローガンのもと、ステークホルダーの皆様と共に成長・発展し、社会に貢献できる企業を目指しています

Environment（環境）

環境対応型製品・技術の開発・拡販



社会発展・環境改善へとつながる製品の開発・提供



廃棄物・水使用量の削減



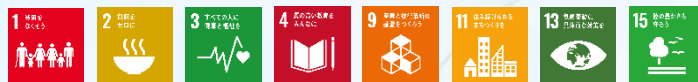
クリーンエネルギーの使用、電力使用量の削減



持続可能な
社会の実現

Social（社会）

社会貢献・地域貢献活動の推進



受注から出荷までの工程の自動化

いきいきと働ける職場環境の整備



Governance（ガバナンス）

コンプライアンスの徹底、人権の尊重



BCP（事業継続計画）の実施



詳細な取り組み内容については、当社ホームページをご確認ください

1. Pbフリーめっき浴

- ・無電解Niめっき浴。主に汎用浴向け。
- ・Pbフリーの電気Snめっき浴。純Sn、Sn-Ag浴など。電子部品向け。

2. シアンフリー浴

- ・シアンフリー & フリーシアン補給不要の無電解Auめっき浴。ウェハー、電子部品向け。

3. デスミアフリープロセス

- ・危険な過マンガン酸をつかわない基板向けプロセス。

4. ホルマリンフリー浴およびホルマリン不使用プロセス

- ・ホルマリンフリー無電解Cu浴の開発。ウェハー向け。

5. PFOS, PFOA, PFASフリー浴

- ・PTFE複合めっき。主に車載部品向け。

6. 廃液処理































- ・めっき液リサイクルユニット

7. CO₂削減

- ・低融点接合材料めっき、低融点接合に適した最終表面処理



グループ会社一覧

会社名	設立年	所在地	主な事業内容
上村工業株式会社	1848年(創業) 1933年(設立)	日本	    
ウエムラ・インターナショナル・コーポレーション	1985年	米国	  
上村(香港)有限公司	1986年	中国 (香港)	
台湾上村股份有限公司	1987年	台湾	    
ウエムラ・タイランド	1987年	タイ	   
上村工業(深圳)有限公司	1988年	中国 (深圳)	   
ウエムラ・インターナショナル・シンガポール	1992年	シンガポール	
ウエムラ・マレーシア	1996年	マレーシア	 
上村化学(上海)有限公司	2002年	中国 (上海)	
韓国上村株式会社	2010年	韓国	 
ウエムラ・インドネシア	2012年	インドネシア	 



営業



研究開発



薬品製造



機械製造



めっき加工



不動産賃貸

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

Growing together with



Uyemura Group Companies

● Japan	C.Uyemura & Co., Ltd.	● Taiwan	Taiwan Uyemura Co., Ltd.
● USA	Uyemura International Corporation	● Korea	Uyemura Korea Co., Ltd.
● Hong Kong	Uyemura International (Hong Kong) Co., Ltd.	● Singapore	Uyemura International (Singapore) Pte Ltd
● Shenzhen	Uyemura (Shenzhen) Co., Ltd.	● Malaysia	Uyemura (Malaysia) Sdn. Bhd.
● Shanghai	Uyemura (Shanghai) Co., Ltd.	● Thailand	Uyemura Thailand Co., Ltd.
		● Indonesia	PT. Uyemura Indonesia